# ちょっとしたおとぎ話のようなもの

しんどうみずき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ちょっとしたおとぎ話のようなもの

【Ｎコード】
Ｎ８７６３Ｊ

【作者名】
しんどうみずき

【あらすじ】
とあるバレンタインの翌日に起こった、ラブストーリー。

今日はバレンタインの翌日ということで、朝から女の子たちは紙袋を提げて登校していました。あの中にはきっと手作りのチョコレートやおしゃれなクッキーが詰まっているのでしょう。

いつもより少しだけ気合を入れて整えた髪を気にしながら、私は教室に向かいました。

ニュースやテレビでバレンタインの話題が報道されるたびに、はかない妄想が頭をよぎります。ひょっとしたら意中の娘が顔を赤らめながら「これ……受け取ってください」と、リボンで可愛らしく飾られた小さな箱を渡してくれるかもしれない、と。

私は当然、かっこいい対応を考えます。

「ありがとう」とシンプルに言うのがいいか、それとも無言で受け取り立ち去って行くのがいいか。

ま、虚しくなるだけなのでほどほどにしておきますけど。

ほとんど人影のない教室に入ると、私はまず自分の机の中身をそっと確認しました。何も入ってません。ま、それはそうか。

淡い失望とほのかな希望を抱きながら、私は時がたつのを待ちました。

きっと機会を見て、恥ずかしそうに手渡ししてくれるはずですから。

「なんか男子、髪切ってる人多くない？」と一人の女子が言いました。私は吹きだしました。みんな頑張ってるんだなー。

お昼休み、私が仲の良い友達としゃべっていると、「これ義理ね」とべたなセリフを言ってとある女の子が袋を差し出しました。友人はそれを受け取り、机の横にしまいます。

「……半分いらない？」

と聞かれたので、

「いらねえよ」

と返しました。嫌味か？
その直後、ショートカットの可愛いクラスメイトが私のすぐそばを通りかかり、
「モテル人はチョコをたくさんもらって大変なんだよ」
と皮肉なのかよくわからない励ましなのか判断できないようなことを囁いて行きました。
悔しかったので私は日本語ではなくただの擬音語のようなものを叫び返しました。

放課後、雨の降りしきる中でのランニングから帰ってきた私は陰鬱とした気分でした。
その日最後の授業は体育で、なぜか土砂降りにも関わらず走らされたのです。服は濡れるわ、耳は痛いわでさんざんでした。
着替えを済ませ、廊下に面しているロッカーに私物をしまっているとき、後ろから声がかかりました。
「あのさ……」
振り返ると、先ほどの嫌味を言った女の子でした。
私は疲れているのもあって、そっけなく返事をしました。
「なに？」
「……これ、バレンタインだから」
ちょっと横を向きながら渡されたのは、小さな飴でした。

その味は甘くてクリーミーで、こんな素晴らしいキャンディーをもらえる私は、
きっと特別な存在なのだと感じました。
一ヶ月後、今では私がホワイトデーのお礼をする番。彼女ににあげるのはもちろんヴェルタースオリジナル。
なぜなら彼女もまた特別な存在だからです。

**（後書き）**

オチはコピペです。
すみません。

ですが、序盤のほうは一部事実です。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8763j/

ちょっとしたおとぎ話のようなもの

2010年10月9日01時32分発行